

現役学生による就職活動報告

1. 就職活動で大切と感じたこと (加末 繁)

私が就職活動に取り組み始めたのは3年次の9月頃でした。夏休みにインターンシップに参加しましたが就職活動に対して何をどう取り組んだらよいかかわからず、キャリア支援センターに相談したのがきっかけです。

このときに取り組んだことは自己分析です。自分の長所・短所・性格・特技・趣味などを分析し、特に長所と性格を深く考え、自己PR、学生時代頑張ったことなどにつなげていきました。

10月頃には就職サイトがオープンし、企業のエントリーを始めていきました。同時に筆記試験対策(SPI、CAB・GABなど)を徐々に始めていきました。この時、自分はどんな会社でどのような仕事がしたいのか考え、自分の長所や性格と照らし合わせることで、職種・業界を絞りました。私は社会貢献できる仕事をしたいという考えでした。

11月中旬には学校が開いている就職活動合宿に参加し、企業の方の話や模擬面接を体験しました。11月下旬になると就職サイトが開催する合同セミナーが始まり、多くの企業と関われる機会があり、事業内容に興味のある企業を回り、疑問が生まれると何でも質問していました。また模擬セミナーなども増え、たくさん参加しました。

12月になると企業の単独説明会が増えてくるので9月から取り組んでいる自己PR・学生時代頑張ったことを完成させ、さらに面接で聞かれそうなことに対する対策に取り組み始めました。この時期には、だんだん就職活動になれてきて、もう一度自分に何が足りないかが見えてきたので、再度自己分析を行いました。人の話を聞く・話す能力というのは友達の話聞く時とは違います。説明会では若干の緊張感もあるので頭の中に企業の情報が入らないこともありました。そこで、その後の説明会ではただ話を聞くのではなく、聞いたことを頭で考え、理解し、メモを取るようになりました。これにより企業が本当に伝えたいことが何か気づくようになり、疑問に感じた場合のみ質問をし、就職活動を始めた頃に比べ、質の高い質問ができるようになりました。

1月になると志望企業の筆記試験・面接などが始まりました。筆記試験を25社、面接を15社程度経験しました。筆記試験に関しては9月からしっかり取り組んだ成果が出ました。面接は15社30回の面接を経験しました。はじめは緊張で自分の言いたいことがうまく言えず、落

ちました。何度かやっていく内に自分のことばかり考えていることに気づきました。自己PR・頑張ったこと・志望動機が面接官にはあまりに抽象的すぎて理解できていないと思い、面接官の立場にたって自分をアピールするようにしました。その結果、面接でも言葉のキャッチボールがスムーズになり、最終的に4月に内定をいただけました。

就活中の約6か月間は自分の将来をしっかりと考え、普段ではできない経験を多く積むことができました。一生懸命取り組んでも結果がついてこないで落ち込むこともありましたが、結果で考えればよい経験となり成長したと感じているところです。

著者紹介

加末 繁(かく しげる)

平成20年4月 九州産業大学情報科学部入学
社会情報システム学科 仲研究室所属
平成24年3月 卒業見込み

2. 就職活動を通して自分を成長させよう (甲斐原 恒太)

就職活動といっても漠然過ぎて何から始めていいのかわからない人もいるでしょうが私は履歴書作りから始めました。その中でもまず「自己分析」から始めました。これを行うことで履歴書の「自己PR」をスムーズに作成することができるし、これまでの自分を見つめ直すいい機会にもなりました。九州産業大学の履歴書は「志望動機」、「自己PR」、「学生時代に力を注いだこと」、「研究内容」、「特技」を書く欄があり、それぞれ4~5行書く必要があります。とりあえず、「自己PR」は面接対策として800文字程度のものを作成して、その要点をまとめて履歴書用のものを作りました。同じようにして「学生時代に力を注いだこと」と「研究内容」も作成しました。「志望動機」以外はどこの企業も同じでいいので一度完成させると非常に楽です。この履歴書作りとリクナビやマイナビなどの就職活動支援サイトの登録を8~9月でしてしまい、10月からはエントリーを開始します。キャリア支援センターの方から100社はエントリーしておいたほうがいいと言われていたので少しでも気になる企業はとりあえずエントリーしました。また、これと並行して業界研究やSPIの筆記試験の対策をしました。

1月のテストが終わるといよいよ本格的な就職活動が始まります。単独説明会ではその会社でしかやっていない独自のことや強みといったところを聞いてしっかりとメモを取りました。何十社も説明会を受けることになるので必ずメモを残しておかないと後でごっちゃになります。説明会で聞いたその会社の独自のことや強みを志望動機に絡めて書くと非常に書きやすいし、企業側から見ても良い印象になると思います。説明会と筆記試験をセットで行う企業も多いのでせっかく説明会を受けたのであれば、興味がなくても是非、試験を受けてみた方がいいと思います。SPIは内容は簡単でも量が多いのでできるだけ経験を積んで慣れておいたほうがいいからです。筆記試験が終わるとグループディスカッションやグループワークを行う企業が多いです。大体、4～5人のグループで課題を与えられてそれについて討論します。この時に心掛けたことは自分の意見をしっかりと言うことはもちろんですが、相手の話を聞くことがとても大事であると感じました。話している人の目を見てうなずいたりしながら話を聞き、自分が話すときは前に話した人の意見を交えるようにしました。コミュニケーションが一番大事なことは聞くことであると言っていた企業もあったのでやはり聞くことは重要であると思います。

次のステップとしていよいよ面接が始まります。初めての面接は誰でも緊張するし、言葉が出ないで失敗することもあるでしょう。ですから、第一志望の企業までできるだけ経験を積んで慣れるようにしましょう。私も最初はかなり緊張しましたが回数を重ねるごとに緊張感はなくなり、面接官と話すことが楽しくなりました。私は面接を通して、どんな圧迫面接でも動じない強い精神力が身に付き、人前でもしっかりと自分の意見を言えるようになりました。このころには面接はだいたい通るようになっていました。このようにして内定を獲得することができました。

就職活動は自分を成長させるためにも大事なことだと思うので是非、一生懸命取り組んでほしいと思います。

著者紹介

甲斐原 恒太(かいばら こうた)

平成20年4月 九州産業大学情報科学部入学

社会情報システム学科 合志研究室所属

平成24年3月 卒業見込み